スポニチ制定バッテリー賞

ともにセ・パ リーグV　チームを支えた原動力

◇18年度バッテリー賞受賞者◇※阻は盗塁阻止率

球団	選手名	年齢	回数	今季成績
広島（セ）	大瀬良大地	㉗	初	試27 勝15 敗7 S0 防2.62
	会沢　翼	㉚	初	試106 率.305 本13 点42 阻.245
西武（パ）	多和田真三郎	㉕	初	試26 勝16 敗5 S0 防3.81
	森　友哉	㉓	初	試136 率.275 本16 点80 阻.373
特別賞	菅野　智之	㉙	—	試28 勝15 敗8 S0 防2.14

スポーツニッポン新聞社が制定する「2018年度プロ野球最優秀バッテリー賞」（協力・一般社団法人電池工業会、協賛・イエローハット、東日印刷）の選考委員会が23日、都内で開かれ、パ・リーグは西武の多和田真三郎投手(25)―森友哉捕手(23)、セ・リーグは広島の大瀬良大地投手(27)―会沢翼捕手(30)に決定。4選手とも初受賞となった。また、巨人の菅野智之投手(29)は特別賞を受賞。4選手には賞金100万円、菅野には50万円が贈られる。

互いに感謝 飛躍の若獅子コンビ

多和田&森 W初受賞

大瀬良&会沢

「獲りたかった賞」

雄星上回る16勝!! 最多勝3年目右腕

最多勝の3年目右腕と高卒5年目の強打の捕手。10年ぶりのリーグ優勝の原動力となった西武の若きバッテリーがともに初受賞となった。エースの菊池を上回る16勝を挙げた多和田は、まずは感謝の言葉を口にした。

「1年間、支えてくれた家族、チームメート、監督、コーチ、スタッフの皆さんがいて獲れた賞です」

今季は開幕から6戦6勝の球団タイ記録をマーク。前半戦で9勝を挙げ、プロ1年目に挙げた自身最多の7勝を軽々と超えた。9月以降は4勝0敗と勝負どころでも力を発揮。「今季はフォームが安定したのが一番。悪いときにこうすれば戻るという、そこが見つかった、気づけたのが一番だと思う」。2度の完封を含む5完投もリーグトップ。防御率は同8位の3・81だったが「将来、エースにならないといけないピッチャー」という辻監督の期待に応えた。

「本当にうれしく思います。自分の力だけじゃなく、多和田さんのおかげだと思っているので感謝します」。そう話した森は、自身最多の74試合に捕手で先発出場した。捕手へのこだわりは強く「プロに入って一番、充実していた」と振り返った。16本塁打を放ち、リーグ8位の得点圏打率・341を残すなど、打撃でも存在感を発揮した。「打てるキャッチャーを目指している」という理想へのステップのシーズンになった。

「いいときも悪いときも
前を向いてやれた」
西武勢2年連続受賞
雄星がメジャー挑戦しても
若きふたりに高まる期待

「プロで一番充実」74試合先発マスク

ソフトバンクに敗れたCSファイナルSでは第4戦での左手首負傷を押して、第5戦に強行出場。左手首をかばいながらも右前適時打を放ち、レギュラーとしての自覚と責任感の成長をみせた。

昨年の菊池―炭谷に続く西武勢の2年連続の受賞。今オフ、菊池はポスティングシステムでのメジャー挑戦を目指す。来季、リーグ連覇を目指すチームは投手力の整備が最重要課題である。「いいときも悪いときも前を向いて一緒にやれたことを森に感謝しています」。そう話した多和田と森にかかる期待は一層、高まるばかりだ。（春川　英樹）

最多勝&勝率1位「違う喜びがある」

今季獲得した最多勝と勝率第1位に加えて新たな称号を手にした広島・大瀬良は、「投手と捕手の2人で築くものを評価してもらったと思うので、また違った喜びがある」と声を弾ませた。

今季27試合に先発して15勝し、そのうち会沢とは17試合でコンビを組んで9勝。会沢は3学年上の先輩ながら、お互いに意見をぶつけ合ってから試合に臨んだ。今季は、これまでめったに見られなかったサインに首を振る機会も増え「今年は、アツ（会沢）さんの配球の色に僕の色も混ぜる感じ。去年よりお互いに一つ上のステージに行けたのかなと思います」と信頼関係はより強固になった。

「アツさんの配球に
僕の色も混ぜた。
去年よりお互いに
一つ上のステージに」

「とてもうれしい」意見ぶつけ信頼↗

特に「投手有利のカウントにしよう」と何度も確認し合った。大瀬良の飛躍を導いた会沢は「一番良くなったのは真っすぐと、フォームの安定。コミュニケーションも去年より取ったと思うし、不安なく入れた」と振り返った。広島では16年の野村―石原以来の受賞となり「獲りたかった賞。とてもうれしい」と喜んだ。（河合　洋介）

今季17試合でコンビを組み9勝を挙げた大瀬良（左）、会沢のバッテリー

10年ぶりリーグ優勝の原動力となった多和田（左）、森のバッテリー

▽最優秀バッテリー賞　投手だけでなく捕手にもスポットを当てて球界最高の「バッテリー」を表彰するもの。第1回は91年で、今年で28回目。1年間を通じ活躍したことを最低条件に、投手は先発は10勝、救援は30セーブ、または30ホールドを目安とする。捕手はインサイドワークや盗塁阻止率、捕逸の少なさなどを基準に選考される。張本勲氏と有藤通世氏は第1回から選考委員を務める。

◇プロ野球最優秀バッテリー賞歷代受賞者◇

回	年	セ・リーグ	パ・リーグ
①	91	西村一古田（ヤ）	工藤一伊東（西）
②	92	岡林一古田（ヤ） 特別賞・達川（広）	石井一伊東（西）
③	93	山本昌一中村（中） 特別賞・古田（ヤ）	金石一田村（日）
④	94	桑田一村田真（巨）	吉田豊一吉永（ダ）
⑤	95	プロス一古田（ヤ）	平井一中嶋（オ）
⑥	96	斎藤雅一村田真（巨） 特別賞・西山（広）	西口一伊東（西）
⑦	97	田畑一古田（ヤ）	西口一伊東（西）
⑧	98	佐々木一谷繁（横）	西口一伊東（西）
⑨	99	野口一中村（中） 特別賞・上原（巨）	工藤一城島（ダ）
⑩	00	五十嵐一古田（ヤ）	吉田修一城島（ダ）
⑪	01	藤井一古田（ヤ）	田之上一城島（ダ）
⑫	02	上原一阿部（巨）	豊田一伊東（西）
⑬	03	井川一矢野（神）	斉藤和一城島（ダ）
⑭	04	川上一谷繁（中）	三瀬一城島（ダ）
⑮	05	藤川一矢野（神）	渡辺俊一里崎（ロ）
⑯	06	川上一谷繁（中）	斉藤和一的場（ソ）
⑰	07	高橋尚一阿部（巨）	成瀬一里崎（ロ）
⑱	08	グライシンガー一阿部（巨） 特別賞・藤川（神）	岩隈一藤井（楽）
⑲	09	ゴンザレス一阿部（巨）	涌井一銀仁朗（西）
⑳	10	前田健一石原（広）	杉内一田上（ソ）
㉑	11	吉見一谷繁（中）	田中一嶋（楽）
㉒	12	内海一阿部（巨）	吉川一鶴岡（日）
㉓	13	前田健一石原（広）	田中一嶋（楽）
㉔	14	菅野一阿部（巨）	金子一伊藤（オ）
㉕	15	石川一中村（ヤ）	大谷一大野（日）
㉖	16	野村一石原（広）	石川一田村（ロ）
㉗	17	菅野一小林誠（巨）	菊池一炭谷（西）
㉘	18	大瀬良一会沢（広） 特別賞・菅野（巨）	多和田一森（西）

選考過程　最後まで悩んだ菅野―小林…1票差大接戦

選考ではセの受賞者を巡って激論が展開された。名前が挙がったのは優勝した広島の大瀬良―会沢と、巨人の菅野―小林。前広島監督の野村氏は「OBとしては2人にあげたいが、菅野は後半の一番肝心なところで活躍した」。牛島氏も「菅野は10完投など抜けた存在」と、巨人バッテリーに票を投じた。

一方で「会沢のチームを引っ張っていく姿勢は優勝の原動力」と中畑氏。規定打席不足ながら打率.305、13本塁打の打撃面も含め貢献度を高く評価した。最終的には大瀬良―会沢が5票、菅野―小林が4票の大接戦。そんな中で「まだ迷っている。菅野に特別賞を」（有藤氏）との声が上がり、10年ぶりの特別賞受賞が決まった。張本氏は「打高投低の時代に8完封、200㌻に200奪三振。菅野は光りすぎている」と称えた。

パは優勝した西武勢の争いで最多勝の多和田―森が8票に対して菊池―炭谷は1票。森の捕手としての成長も評価され、東尾氏は「辻監督が思い切って使った。盗塁阻止率も.373と高い。見直した」と話した。

（後列左から）野村氏、牛島氏、中畑氏、東尾氏、有藤氏、張本氏

◇選考委員◇

張本　勲	（元ロッテ）
有藤　通世	（元ロッテ監督）
田淵　幸一	（元ダイエー監督）
東尾　修	（元西武監督）
中畑　清	（前DeNA監督）
牛島　和彦	（元横浜監督）
槙原　寛己	（前巨人）
伊東　勤	（前ロッテ監督）
野村謙二郎	（前広島監督）

※敬称略

菅野「特別賞」

巨人・菅野が最優秀バッテリー賞の「特別賞」を受賞した。同賞は08年の阪神・藤川以来10年ぶりとなった。

今季は15勝8敗、防御率2.14、200奪三振で3冠。さらに両リーグダントツの10完投8完封。CSファーストSの14日のヤクルト戦ではポストシーズン史上初のノーヒットノーランも達成した。2年連続沢村賞も有力視されている。

菅野は自身の巨大写真を背に笑顔

この日は、2018年度の「東京ドームMVP賞」にも選出された。2年連続3度目の受賞。東京ドームで10勝3敗、防御率1.68、102奪三振、6完封。満場一致での選出に笑顔だったが「来年は誰か対抗馬が出てきてくれたらうれしい」と、エースとしてチームの活性化を求めていた。

☆紙面編集　中村　綾佳